

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書**地域密着型サービスの外部評価項目構成**

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4690100047
法人名	(有) ピース アンド ハーモニー
事業所名	グループホーム ローズタウン
訪問調査日	平成20年9月16日
評価確定日	平成20年11月7日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4690100047		
法人名	(有) ピース アンド ハーモニー		
事業所名	グループホーム ローズタウン		
所在地	鹿児島市下荒田2丁目34-15 (電話) 099-284-1582		
評価機関名	特定非常利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成20年9月16日	評価確定日	平成20年11月7日

【情報提供票より】(20年8月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月30日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	12人, 非常勤 4人, 常勤換算 15.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	4階建ての 2階 ~ 3階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	月 36,000 円	その他の経費(月額)	日 500 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000円	

(4) 利用者の概要(8月15日現在)

利用者人数	18名	男性	名	女性	18名
要介護1	3名	要介護2		5名	
要介護3	6名	要介護4		4名	
要介護5	名	要支援2		名	
年齢	平均 86.7歳	最低	81歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	有馬胃腸科外科医院 竹迫歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市中心街の市電通りに面してマンションの2・3階にホームがあり、周囲に同業種の他施設や事業所・神社・商店などがあり、利便性の良い環境の中に、地域医療と地域福祉を目指した法人をバックに開設されているホームである。運営者、管理者の思い(利用者の全てを受容し、利用者本意のケアに努める)をひとつにして利用者に関わりながら自己研鑽に励み、本人や家族などの信頼関係を構築している。開設間もないホームであるという事を感じさせない充実した雰囲気をかもしだしている。またデイサービスや居宅介護支援事業が併設されており、通所の方々との交流や、地域行事に参加したり中高生の職場体験・ボランティア来訪・交流室を地域の人々のイベントに開放したり、介護教室を開催するなど、多くの人々と地域資源との関係を築き支えられている。職員の思いと家族などの信頼関係、地域の方とのふれあいはホームが掲げる理念のように住み慣れた町であたり前の暮らしを実践しながら都市型のグループホーム運営の充実を目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスの理念は作成されているが、さらに地域の方々に分りやすい理念の表現方法を検討している。地域行事に参加したり、中学校の運動会や演奏会見学や体験学習、ボランティア来訪など幅広い交流が行われて改善されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価について、管理者、職員は話し合い意義を理解し評価に前向きに取り組んでいる。評価結果を踏まえて改善に向けて検討や実践につなげている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議は定期的に同法人内の事業所と合同で開催されている。各事業所の取り組み内容など報告し理解が得られている。認知症の利用者への関わり方についてなどの意見を受け、対応法を報告しサービスの質の向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	相談箱を設けている。職員は来訪時や家族会時に意見の疎通を図り意見や要望などを出しやすい雰囲気づくりに心がけている。利用者の病状の変化は細かな報告をとる要望に対し専門分野(主治医・職員)に報告するように対応し、運営に反映している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域行事(十五夜、すこやか祭り、六月灯)に参加している。また中学校の運動会や高校生看護協会の職場体験や実習、ボランティア来訪、交流室を地元の方々イベント開催に開放したり介護教室を開催している。災害時の協力体制もできており交流は行われている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームの意義と役割、地域で暮らし続けるための理念をホーム開設時に職員の意見を集約してつくり上げている。		地域の中で、その人らしく暮らし続ける事を支えていくという新しいグループホームの位置づけに即した分りやすい理念の検討が望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホールや玄関、エレベーター、スタッフルームに掲示している。会議やカンファレンス時に唱和して共有に努め、日々のケアに実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事(十五夜、すこやか祭り、六月灯)に参加している。また中学校の運動会見学や高校生、看護協会の職場体験や実習、ボランティア来訪、交流室を地元の方々のイベント開催に開放したり、介護教室を開催している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価について、管理者職員は話し合い意義を理解し評価に前向きに取り組んでいる。評価結果を踏まえて改善に向けて検討や実践につなげている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に行われている。同法人内の事業所と合同で行われており各事業所の取り組み内容など報告し理解が得られている。認知症の利用者への関わり方についての意見を受け、対応法を報告しサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険、事故報告、利用者の身辺状況や取り組みの相談、介護相談の受入れなど市の担当者が行いながら協力関係を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行しているホーム便りと月次報告をしている。また来訪時や電話、家族会などで日常の暮らしぶりや身体状況を報告し、金銭管理は出納帳により管理しコピーにて報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談箱を設けている。職員は来訪時や家族会時に意見の疎通を図り意見や要望などを出しやすい雰囲気づくりに心がけている。利用者の病状の変化は細かな報告をとの要望に対し専門分野(主治医・職員)で報告するように対応し運営に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なじみの関係の重要性を認識している。なるべく職員の異動がないように心がけている。やむをえない異動の際には十分な説明をして利用者へのダメージ予防に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月定期的に行われている勉強会に参加している。外部研修は段階に応じて交替で参加し、研修報告がされて職員は共有できている。また資格取得に挑戦している職員に支援している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市グループホーム協議会に加入しており他事業所との交流の機会が多く、勉強会や相互の訪問スタッフ交換(1日)などの交流を行い情報交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の際には自宅、老健、病院を訪問し生活歴の把握に努めている。また見学をしてもらい徐々になじみながら信頼関係作りに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として尊敬している。調理の仕方や、冠婚葬祭や行事のならわしなどの話をしてもらっている。また外出時に見せる利用者の笑顔や感謝の手紙に職員は元気をもらいながら日々を共にしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で問いかけをし、行動や表情を観察して思いや意向を把握している。利用者の意向に答えられるように職員は常に声かけや環境作りに努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向をもとに主治医・職員などの意見を活かした本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的(12ヶ月)な見直しをしている。毎月モニタリングを行い、評価結果を見直しに活かしている。定期的な見直しと状態変化、入退院時にはその都度見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族などの状況や要望に応じて病院受診、自宅訪問、お墓参りなど必要な支援を柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族などが希望しているかかりつけ医の受診が継続できるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対して家族、医師、看護師を交えて話し合い職員も共有している。ホームが支援できる方向性を統一した指針が定められて家族などの同意書も作成されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員に対して勉強会や日々のケアの中で常に意識づけをしている。職員採用時の誓約書もあり、利用者の尊厳を大切に、穏やかな声かけや態度で対応している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが(起床、就寝、食事、入浴、散歩、レクリエーションなど)一人ひとりの心身の状況に合わせてその人のペースで生活できるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや盛りつけ、配膳、下膳など出来る事を一緒にしながら職員も同席して食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決められているが、一人ひとりの希望する入浴支援に取り組んでいる。またシャワー浴や清拭、足浴もしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生花、裁縫、アイロンがけ、習字、手紙、植木の手入れなど得意な事に力を発揮してもらったり、墓参り、自宅訪問、温泉入浴など気晴らしのできる事を支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には散歩や買い物、外食にでかけている。その他ドライブ、花見、六月灯、水族館などに出かけてホームに閉じこもらない支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	都市型のマンション2・3階にあるホームのため、インターホンでの対応であるが、利用者は違和感なく穏やかに暮らしている。利用者にとって慣れ親しんだ生活環境であることがうかがえた。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもとに昼間、夜間想定避難訓練を行っている。地域住民の協力体制もできており、災害時の備蓄などもなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量を記録して把握している。不足分はゼリーなどで補っている。身体状況に合わせてキザミ食やトロミ食を取り入れている。また栄養バランスは栄養士のアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく、換気や臭いに配慮が行届いている。和室に仏壇もあり、ホールには季節行事の飾り付けや手作りカレンダー、習字、写真など飾られて、家族的な共用空間である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	神棚、テレビ、ぬいぐるみ、化粧品セット、鏡などそれぞれなじみの物が持ち込まれている。また各居室にベランダがあり鉢植えを置くなど工夫し居心地良く過ごせる居室作りである。		